

出資法人等評価・カルテシート（令和2年度分）

1 出資法人等の概要

| | | | |
|---------|---|-----------|--------------------|
| 団体名 | 公益財団法人とよなか国際交流協会 | | |
| 所在地 | 豊中市玉井町1丁目1-1-601 | 所管部局・課 | 人権政策課 |
| 設立年月日 | 平成5年(1993年)11月18日 | 代表者 | 理事長 松本康之 |
| 基本金・資本金 | 200,000,000円 | うち市出資額(率) | 200,000,000円(100%) |
| 設立目的 | <p>この法人は、豊中市、関係団体等と連携を図りながら、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動を推進することにより、世界の多様な文化及び人々との相互認識と理解を深めるとともに、地域の国際化を促進し、新しい地域文化の創造と平和で平等な地域社会づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>(1) 国際交流の機会提供及び参加促進事業 (2) 国際理解及び国際化に関する啓発・研修事業 (3) 国際交流に関する情報の収集及び提供事業 (4) 民間団体の国際交流活動に対する支援事業 (5) 国際交流に関する調査及び研究並びにその受託事業 (6) 国際協力に関する事業 (7) 在住外国人に対する支援事業 (8) その他上記の目的を達成するために必要な事業</p> | | |

2 役員・職員関係

各年4月1日現在

| | | H30 | | | R元 | | | R02 | | |
|---------------------------|-----|-----|-----|---|--------------------------------|-----|---|---------------|-----|---|
| | | 市職員 | 市OB | | 市職員 | 市OB | | 市職員 | 市OB | |
| 役員 | 常勤 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 非常勤 | 10 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1 |
| 職員 | 常勤 | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| | 非常勤 | 7 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 役員の平均年間報酬 (R元年度、千円) ※常勤のみ | | 0 | | | 職員の平均年間給与 (R元年度、千円)・平均年齢 ※常勤のみ | | | 4,611千円・41.2歳 | | |

3 財務関係

| | | 金額(千円) | | |
|-------|----------|--------|--------|--------|
| | | H29 | H30 | R元 |
| 損益計算書 | 総収入 | 77,498 | 79,845 | 80,067 |
| | (うち市受入金) | 68,404 | 70,010 | 69,773 |
| | 総費用 | 74,944 | 78,418 | 77,673 |
| | 経常損益 | 2,675 | 1,691 | 2,310 |
| | 当期損益 | 2,471 | 1,478 | 2,076 |

| | | 金額(千円) | | |
|-------|-----------|---------|---------|---------|
| | | H29 | H30 | R元 |
| 貸借対照表 | 資産の部合計 | 226,711 | 228,530 | 229,610 |
| | 負債の部合計 | 10,689 | 11,030 | 10,033 |
| | (うち有利子負債) | 0 | 0 | 0 |
| | 純資産 | 216,023 | 217,501 | 219,577 |
| | 利益剰余金 | 14,023 | 15,501 | 17,577 |

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

| | | H29 | H30 | R 元 | 主な内容、算出根拠等 |
|------|---------|---------|---------|---------|------------|
| フロー | 補助金 | 0 | 0 | 0 | |
| | 事業費 | 0 | 0 | 0 | |
| | 運営費 | 0 | 0 | 0 | |
| | 委託料 | 6,772 | 7,367 | 6,954 | |
| | 指定管理委託料 | 62,932 | 62,932 | 62,819 | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | | 69,704 | 70,299 | 69,773 | |
| ストック | 貸付金残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 債務保証残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 損失補償残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 出資金 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 平成5年11月出捐 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | | 200,000 | 200,000 | 200,000 | |

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

| 事業名 | 事業内容 | 活動指標 | H29 | H30 | R 元 |
|-----------------------------|--|---|--------------------|--------------------|--------------------|
| 市民主体の国際交流活動推進事業 【指定管理事業】 | 情報サービス事業：情報を市民に発信するために実施している （「とよなかこくさいこうりゅうきょうかいのおしらせ」の発行等） ホストファミリー・留学生交流事業：留学生とのホームビジットの形式で半年から1年の交流を行っている 市民活動協働推進事業：「共同デスク」等中間支援組織同士が情報交換をしながら市民活動の層を厚くするために発信を行っている | おしらせ発行部数（部） ホストファミリー交流企画参加人数（人） 共同デスク会議開催数（回） | 20,400 114 6 | 24,000 242 5 | 24,000 231 4 |
| おとな国際事業 【指定管理事業】 | にほんご活動事業：地域で暮らしている外国人市民が、出会い、交流し、対話し、日本人との新たな双方向の関係を結んでいける機会をつくっている（「もっともつがえるにほんご」「とよなかにほんご」「にちようがちやがちゃん」「おやこでにほんご」等） | にほんご活動参加人数（人） 開催回数（回） | 9,912 330 | 9,435 319 | 8,413 273 |
| 持続可能な地域づくり事業 【自主事業】 | 「ESD とよなか」事業：次代に向けて持続可能な地域づくりのために情報交換している メディアリテラシー市民ゼミナール事業：メディア研究者等とチームを組み、メディア分析を行う市民講座を通して社会を捉えなおす講師等の派遣をしている | ESD とよなか連絡会議（回） メディアリテラシー市民ゼミナール参加人数（人） | 6 12 | 7 9 | 8 5 |
| 持続可能なひとづくり事業 【指定管理事業】 | ボランティア養成・ボランティア研修事業：事業に関わるボランティアの研修を行っている（ボランティア研修事業・「哲学カフェ」など） | 参加人数（人） | 354 | 366 | 464 |
| 子ども国際事業 【指定管理事業】 | 韓国・朝鮮のこぼとあそびのつどい：韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちのために、出会い、つながり、自己肯定感を持つ場をつくるために実施している 「おまつり地球一周クラブ」：地域の小中学生を対象にした国際理解プログラムを実施している | こぼとあそびのつどい参加人数（人） 「おまつり地球一周クラブ」参加人数（人） | 211 140 | 238 111 | 289 95 |
| おとなサポート事業 【指定管理事業】 | 相談サービス事業：多言語で安心できる相談機能を提供すると同時に、地域で孤立している外国人へのアウトリー | 相談件数（件） | 958 | 1,001 | 952 |

| | | | | | |
|----------------------------------|---|--|---|---|---|
| | 子、外国人の自立サポートを行うとともに、他事業から派生する外国人のサポートシステムとしても機能するよう実施している | | | | |
| 子どもサポート事業 【指定管理事業】 | <p>多文化子ども・保育事業：地域に暮らす就学前の外国人の子どもたちが多様な子どもや大人に接し、コミュニケーションをとることで社会生活に慣れるための場づくりとして、また保護者が子育てについて相談したり、地域の情報を得たりできる場づくりとして実施している（「多文化子ども保育にここに」、「多文化子育て支援ボランティア養成講座」）</p> <p>子ども母語・学習支援「サンプレイス」事業：外国にルーツを持つ子どもが母語や文化を学ぶことを通じて、仲間と出会う場づくりとして、また日本語・学習支援を通じた居場所づくりとして実施している</p> | <p>多文化子ども保育にここに 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>多文化子育て支援ボランティア養成講座 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>子ども母語 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>サンプレイス 開催回数（回） 参加人数（人）</p> | <p>90 873</p> <p>3 62</p> <p>97 339</p> <p>44 467</p> | <p>89 771</p> <p>3 55</p> <p>58 208</p> <p>39 399</p> | <p>83 711</p> <p>4 90</p> <p>43 218</p> <p>38 310</p> |
| 小学校英語外国語体験活動事業 【豊中市教育委員会受託事業】 | 小学校英語外国語体験活動事業：小学生を対象に、異なる文化・言葉・背景を持つ人の存在を通して、国際理解や共生していこうとする姿勢、外国語を使用してコミュニケーションを図る積極的な態度を身につける機会を提供するために実施している（小学校英語外国語体験活動事業） | 体験人数（人） | 39,000 | 34,200 | 37,400 |
| 施設管理受託事業 【指定管理事業】 | <p>国際交流・男女共同参画目的貸室業務、一般利用目的貸室業務及び、一般市民に対する授乳室利用対応を行っている</p> <p>「デザイン5」：指定管理受託期間の協会・活動を市民と共に考えて工夫していくための市民参加の場づくり</p> | <p>センター使用件数（回） 利用人数（人） 「デザイン5」参加人数（人）</p> | <p>6,028 60,249 -</p> | <p>5,906 60,905 -</p> | <p>5,583 53,991</p> |

（２）財務指標

| 指標 | 視点 | 内容 | H29 | H30 | R 元 |
|-------------------------------------|-----|--|--------|--------|--------|
| 市受入金比率 市受入金／経常収益×100 | 自立性 | 市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。 | 88.3% | 87.7% | 87.1% |
| 人件費比率（％） 人件費／経常費用×100 | 効率性 | 数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。 | 46.1% | 46.2% | 43.4% |
| 管理費比率（％） 管理費／経常費用×100 | 効率性 | コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。 | 3.7% | 3.3% | 3.3% |
| 正味財産比率（％） 正味財産合計／（負債＋正味財産合計）×100 | 安全性 | 負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営の安全性が高いといえます。 | 95.3% | 95.2% | 95.6% |
| 固定比率（％） 固定資産／正味財産合計×100 | 安全性 | 正味財産合計に対する固定資産の割合。固定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表します。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。 | 97.3% | 97.8% | 96.8% |
| 流動比率（％） 流動資産／流動負債×100 | 安全性 | 1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。 | 153.7% | 144.3% | 170.3% |

| | | |
|------------------|---|--|
| | <p>を効果的に行うためには、事業、総務、法人管理など横断的に課題を把握し、改善策について検討することが必要です。昨年度より継続して行っていることから、少しずつ横断的、多角的に分析し、改善策を考へることが定着しつつあります。</p> <p>個々の職員のスキルアップについて、平成30年から自己評価に取り組んでいます。自己評価をより効果的に職員のスキルアップや事業の改善につなげるため、中間段階、期末段階での面談を取り入れました。定期的に協会、事業や総務などのチーム、個人での目標を確認し、振り返る機会を設けることで個人の成長と組織としての成長が連動するよう取り組んでいます。</p> <p>また、事務局を支える体制を手厚くするため、平成29年度から理事、監事、評議員によるワーキンググループを再開しています。令和元年度は1回開催しました。</p> | <p>いることから一定の効果을上げています。また、事業、総務、法人管理など横断的に課題を把握することについても、少しずつ浸透してきています。今後も必要な改善は加えつつも、引き続き、現在の体制を基本に事務局の運営を進めていきます。</p> <p>個々の職員のスキルアップについて、自己評価及び中間、期末段階での面談を継続して行い、定期的に個人、チーム、協会としての目標と現状を照らし合わせる機会を引き続き設けることで、個人の成長を組織の体制整備へとつなげていきます。</p> <p>事務局を支える体制について、ワーキンググループの定期的な活動はここ数年の課題となっています。事務局主導だけでなく、ワーキンググループメンバーによる運営を模索するなど、効率的かつ効果的な運営方法について検討し、試みていきます。</p> <p>最後は、特に災害時を想定した取組みになりますが、離れた地域（九州、関東、東北を想定）の国際交流協会などと翻訳等の協力関係を作ること、ITの活用による業務が可能な範囲の見極めなどを行い、災害時に機能不全に陥ることなく、安定して業務を行える体制づくりを進めていきます。</p> |
| <p>自主財源比率の拡大</p> | <p>自主財源比率の拡大を図るために、受託による自主事業、職員による講師派遣などに取り組むと同時に、賛助会員の増大や寄付金等の募集及び会員・寄付金募集のための地域や企業回り、その土台となる広報活動などを行い、自主財源の確保に努めました。</p> <p>自主事業では、独立行政法人福祉医療機構や大阪府から事業を受託して取り組みました。また、豊中市をはじめ、近隣の学校や事業者、国際交流協会などで開催される研修会に職員を講師として派遣したり、新聞等に連載を行い、収入としました。</p> | <p>自主財源比率の拡大を図るために、受託事業や助成金事業等による自主事業、賛助会員の増大や募金・寄附金等の要請活動のための地域や企業回りほか、より多くの人に協会を知ってもらうための取組みを引き続き行います。</p> <p>自主事業では、引き続き、独立行政法人福祉医療機構から事業を受託することが決まっています。講師派遣については、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、研修会を自粛するところが多くなり、依頼が減ると見込んでいますが、引き続き、積極的に講師派遣を受けていきます。また、新聞</p> |

| | | |
|----------------------------|--|---|
| | <p>賛助会員の増大や寄付金等の募集（通常の寄付金の募集、夏季募金・冬季募金、25周年記念募金）は協会職員が参加する各種会議やイベント（新春の集い等）、前述の講師派遣などの機会を通じて積極的に行いました。また、協会の設立 25 周年を受け、平成 31 年 3 月に出版した本について、その出版経費を賄うためにクラウドファンディングを行っていましたが、その寄附を受け取りました。また、出版記念シンポジウム等の機会を通じて、その書籍の積極的な販売に努めました。実際に外国人労働者を雇用している事業者から賛助会員への申し出もあり、今後もしっかりとアプローチを続けます。</p> <p>さらに、協力の前段階として理解者を増やすことをめざして、協会の広報活動ホームページの刷新、一般向けのセミナーや子ども向けイベント（お化け屋敷）を開催するなどし、多くの方に存在について知ってもらえるように努めました。</p> <p>いずれの場合においても、市民向け年次報告書（オールカラー版）を配布し、市民に広く広報すると同時に、議会、行政各課、市内の様々な団体や個人へ広報活動を行いました。</p> | <p>の連載は終わりましたが、別のメディアから連載依頼を受けており、引き続き、広報かつ収入の機会とします。</p> <p>賛助会員や寄付金について、新型コロナ禍による影響から、減少する可能性も大いにありますが、広報活動自体は積極的に行っています。特に政府として外国人労働者の受入拡大を進めている一方で、受入れ環境が十分整ってはいないことがメディア等でも報じられており、だからこそ当協会の多言語相談事業を中心とした外国人支援の取組みをしっかりと発信していきます。第一義的には支援を必要な人に届けるための発信ですが、その発信がゆくゆくは当法人に対する理解や応援につながると信じ、地道に続けていきます。</p> <p>一般向けのセミナーはセンターだけでは開催できませんでしたが、今年度は新型コロナウイルスの感染状況を見ながら判断ということになりますが、引き続き、市の南部と北東部での開催をめざしていきます。</p> <p>市民向け年次報告書（オールカラー版）の配布による市民、議会や行政各課、市内の様々な団体や個人への広報活動を続け、地域における認知度を高めながら、自主財源の拡大、経営基盤の一層の安定化を図ります。</p> |
| <p>専門性と資質向上のための研修制度の確立</p> | <p>平成 27 年度から行っている研修制度（経験年数別の研修や管理職研修）、自己啓発ができる研修制度（職免）のほか、定期的に職員研修を行いました（外部の研修会への参加も含む）。</p> <p>また、自己評価制度で中間、期末の面談及び職員全体での振り返りを取り入れ、職員の自己研さんが進むよう取り組んだほか、支援事業担当の職員については、臨床心理士によるスーパーバイズセッションを継続して行いました。</p> | <p>外国人労働者の増加を受け、様々な機関や団体からの問合せ、外国人からの相談が増えている中、その対応に追われがちですが、そういった状況だからこそ、スキルアップ、専門性の向上やスーパーバイズセッションや振り返りの機会を確保し、丁寧に行っています。</p> <p>これまでと同様に各種研修制度や研修に加え、自己評価と面談、スーパーバイズセッションや視察研修を組み合わせながら専門性と資質向上に努めます。</p> |

| | | |
|-----------------|--|--|
| | <p>また、先進地域の視察研修（東京、知立〔愛知県〕、出雲、総社〔岡山県〕、岡山）を行い、当協会とは違う環境、状況の中で多文化共生の地域づくりを肌で感じることで自分たちの取組みを普段とは全く違う角度から振り返ることができました。</p> <p>研修（講義等）と振り返り、視察研修など、知識やアイデア、ノウハウ、刺激の吸収とスーパーバイズやミーティングによる振り返りとを組み合わせることで、いろいろな角度から自分たちの業務の振り返りを行い、専門性と資質の向上に努めました。</p> | <p>また、役員によるワーキングチームをどのように運営するかという課題はありますが、様々な分野で専門的な活動に取り組んできた役員の知見やスキルなどを学ぶ機会の拡充に努めます（具体的には、直接的に業務運営のサポート、助言等に関わる機会を作るなど）。</p> |
| <p>事業の精選と拡充</p> | <p>令和元年度も市民・学生ボランティア等による主体的で広範な参加により、全 29 事業や様々なイベントの活性化を図り、充実した取組みを実施しました。また、事業評価会で出た意見を踏まえて、各事業のボランティアと意見やアイデアの交換を行いました。</p> <p>まず、外国人労働者の増加、政府による外国人受入れ態勢の拡充の方針を踏まえ、相談事業の在り方について検討し、次年度から拡充することとなりました。</p> <p>防災については、地域との関係づくりを進めたほか、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、災害時多言語情報支援センターを設置し、外国人の状況把握、情報発信、相談対応に努めました。</p> <p>今後も外国人を取り巻く状況が常に変わり続けることを踏まえ、柔軟に機動力を持って対応していきます。</p> <p>一方で、財団のミッションを踏まえ、より効果的な事業体系を創り上げていくために、一事業（学楽多）については、2019 年度限りとする判断をしました。もともとは市南部地域へのアウトリーチ、多様な子どもの学習支援を意識して取り組んだものであり、その必要性は依然として変わりませんが、当法人における事業の位置付け、アウトリーチの方法について改めて検討し直す必要があると判断して仕切り直しとしたものです。</p> | <p>当協会では毎年、事業に参加している市民・学生ボランティアによる事業評価会を実施しています。</p> <p>事業評価会では事業の拡充に関連することとして、改めて状況の把握（外国人の状況や制度のこと）、事業間のつながり、アウトリーチを充実させることが必要であるという指摘が出ています。具体的にどういう形で実現させるか、各事業のボランティアと意見やアイデアの交換を進めていくことから始めていきます。</p> <p>特に新型コロナウイルスの感染拡大によりどういった影響が地域で暮らす外国人に出ているのか、その状況は時期によっても刻々と変わっていくと考えられます。また、多くの市民ボランティアと事業を運営していますが、どういった実施形態、体制が適当か、検討を重ねていきます。</p> <p>丁寧に状況把握と対応の検討を重ねながら、事業の精選と拡充に努めていきます。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>今後も必要に応じて、場合によっては事業の実施や停止・休止などの選択肢も頭に入れながら、当法人のミッションをより効果的・効率的に実現するための事業体系を作っていきます。</p> | |
|--|--|--|

8 出資法人等の自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 今後の取組み方針 |
|--|---|--|
| <p>必要性 実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか</p> | <p>2019年4月、外国人労働者の受入拡大が始まりました。日本全体で外国人数は増加しており、政府でも多文化共生社会の重要性が言われています。豊中でも外国人は増えており、当法人が多文化共生のまちづくりを推進する上で果たすべき役割は重要性を増しています。</p> <p>当法人は指定管理者として、豊中市における多文化共生のまちづくり、地域の国際化の拠点であるとよなか国際交流センターを中心に外国人への総合的支援事業と人権尊重を基調とした国際交流活動と多文化共生社会の推進に努めてきました。</p> <p>乳幼児から高齢者まで世代の切れ目なく、支援を行うことをめざし、約500人の市民ボランティアと共に日本語交流活動、相談サービス、多文化保育、子ども母語・学習支援、若者支援、留学生・ホストファミリー、多文化共生&国際理解推進、小学校外国語体験活動、講師派遣等、社会や地域のニーズに沿った全29事業を展開しています。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大などのため、センターの年間利用者数は76,356人で前年度より減ったものの、そのうち外国人は全体の約42%を占めています。豊中市の外国籍住民比率1.5%を大きく上回っていることから、幼児から高齢者まで多様な人々が安心して気軽に集える場(センター)になっていると言えます。</p> <p>このほか、外国人のための防災フェアや地域の避難訓練で多言語対応を行うのに協力するなど、外国人の安全・安心に努めてきました。また、新型コロナウイルス感染拡大を受け、災害時多言語情報支援センターを設置し、情報発信や相談対応の強化を行いました。</p> <p>豊中市には南部地域活性化という大きな課題があります。南部地域の活性化かつセンターへのアクセスが困難な人のため、南部地域の図書館、活動する団体や個人と協働・連携して、親子参加型の日本語交流活動や子どもの学習支援を定期的(週1回)に開催してきました。南部地域には工場や介護施設が多くあり、そこで働く外国人が増えてきていますが、今後増々増加が見込まれる中、今後も継続的に南部地域の活性化に関わっていきます。</p> <p>このように当財団では、社会状況や環境の変化、そして市民のニーズ等に沿った事業を展開しています。</p> | <p>現在、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、特定の国・地域からの来日が禁止されています。今後の動向について、まだ方向性が打ち出されているわけではありませんが、外国人労働者の受入れ拡大の大きな理由である少子高齢化による労働力不足は今後も続くことが見込まれます。外国人労働者の数は、地域や業種などにより、今以上に大きく偏りが生じる可能性もありますが、今後も引き続き、増えることが予想されます。一方で、すでに日本に暮らす外国人の中には仕事や生活の面で厳しい状況に置かれる人が増えることが見込まれます。また、市内各所の団地等においてまとまって居住するケースなども散見されるようになりました。</p> <p>これまでと異なった状況が生じている中、豊中においても国際交流協会の果たす役割は拡大し、これまで以上に重要になってくると思われます。新たな状況下において、新たに発生するニーズなどを適切につかみ、対応していきます。</p> <p>まず、支援が必要な人を当法人の事業につなぐため、少しでも多くの人に当法人の取組みについて知ってもらうことに努めます。</p> <p>また、つながった外国人をしっかりと支援あるいは交流するため、当法人が行う事業により多くの市民の参加を促します。そのためにも、まずはより多くの人に知ってもらうことに努めます。存在を知ってもらうこと、実際に足を運んでもらうこと、そこから協力してもらうこと、参加してもらうことにつなげていきたいと思えます。</p> <p>昨年度はウェブサイトの刷新を行いました。が、よなか国際交流センターお知らせや当財団のウェブサイトの充実、継続的な地域や企業回りなどを行います。</p> <p>また、協会のことを知らない人を対象に、協会のことを知る機会、足を運んでもらう機会としてセミナー、シンポジウムやイベント等を開催します。そこから協会事業への参加や協力などにつながるよう広報を行っていきます。そうした広報活動により、必要な支援が必要な人に届くように努めます。</p> <p>さらに、個々の事業の課題解決に向けた取組も重要になります。事務局、協会ボランティア、市民団体との間で情報交換、意見交換などを進め、体制整備につなげていきます。特に新型コロナウイルスの感染拡大を受け、事業の実施形態について、また外国人への情報提供のあり方について、検討を重ねていきます。</p> |

| | | |
|--|---|---|
| | | <p>豊中市には南部地域活性化という大きな課題があります。今後も積極的に南部地域へのアウトリーチによる国際理解事業や防災訓練などを実施し、外国人との共生のまちづくりの役割を担えるように努めていきます。</p> <p>外国人が一時的な労働者ではなく、地域社会の一員として安心して暮らすことができるよう取り組んでいきます。</p> |
| <p>効率性 ・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか ・組織体制、人事給与水準は適正か</p> | <p>日本語交流活動、相談サービス、ホストファミリー、子ども・若者支援事業など全 29 事業において、500 人近くの市民・学生ボランティア（外国人市民を含む）の協力によって、地域に住む外国人と日本人の様々なニーズに沿った多様な活動を展開することができています。さらに効率的・効果的に事業を運営するため、ボランティアの参加による事業評価会、各事業のボランティアへのヒアリングを行い、事業や協会による支援の改善について検討を行っています。</p> <p>同時に、とよなか男女共同参画推進財団をはじめとする福祉・環境・スポーツ・人権など様々な分野で活躍する団体との連携により、地域の人的・物的資源と情報を有効に活用することができています。また、センターの登録グループや国際交流団体との連携により豊中市の国際交流団体のネットワークづくりの礎となりつつあります。さらに、府内の国際交流協会とのネットワークによる情報共有及び課題解決に向けた取組も安定し、外国にルーツをもつ子どもたちの支援に携わっている団体・個人によるネットワークは活動の幅を広げてきています。</p> <p>組織体制、人事給与水準について、引き続き、面談などを通して個人個人の意見をヒアリングしているほか、理事長会議、主任会議などで定期的に検討を行っています。また、現場の声を踏まえて検討した案を理事会、評議員会に伝え、共有しています。さらに理事、評議員、監事によるワーキングチームで課題解決に向けた検討を行うなど、経営と現場の距離が近くなるよう取り組んでいます。</p> | <p>多くの市民ボランティアの参加により、事業を進めていますが、今後も引き続き、事業評価会、各事業のボランティアへのヒアリングを行い、事業や協会による支援の改善について検討を行っています。また、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、継続的に安心して関わられる活動環境づくりを進めます。</p> <p>大規模災害時などの緊急時において、多言語通訳ができる人材、外国人コミュニティ内でキーパーソンの役割を担える人材、地域で外国人住民の支援が可能な人材等の把握や登録を進めていきます。支援を受けるだけでなく、支援する側にも回れる人材が増えるよう取り組んでいきます。</p> <p>ネットワークについては、インターネットなどを介した形で情報や意見の交換ができ、コロナ禍の状況にあっても、あまり機能低下しないことが確認されました。これまでに作り上げてきた様々なネットワークを生かして、多文化共生・国際交流を進めていきます。</p> <p>組織体制について主任会議や自己評価を始めるなどして、状況の把握及び改善に努めてきました。引き続き、取り組むことでより安定した組織体制を確保します。</p> <p>また、平成28年度に策定した次世代育成行動計画に基づき、雇用環境の整備を進めていきますが、新型コロナの感染拡大による影響を見ながら柔軟に対応していきます。</p> |
| <p>有効性 ・意図する成果に有効に結びついているか</p> | <p>世界的なグローバル化の進展、日本の少子高齢化による外国人労働者の増加などを受け、豊中市でも外国人が増えています。実際に会う機会がなければ、その動きを実感することはありません。また、外国人も日本社会との接点を作れないことには自分たちの生活環境をより良いものにし、安心して暮らすのは困難です。</p> <p>外国人も日本人も広く参加でき、交流することでお互いに学び、生活を変えていくことができます。</p> <p>また、ボランティア養成講座や市民向けセミナー、多文化共生推進事業等を受講することで、多様性を承認する大切さと気づき、ちがいを豊かさとしてとらえることができる多くの市民が、それぞれの地域で自発的に多文化共生のまちづくりに関わっています。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により参加者数の減少は見られたものの、依然として多く</p> | <p>これまでと同様に多くの市民と共に、豊中の多文化共生の地域づくりを進めていきます。センター事業を共に推進している市民・学生ボランティアやセンター利用者との課題共有と協働関係をさらに深めていきます。</p> <p>より効果を高めるため、当協会の組織体制の強化、事業の安定化だけでなく、地域の国際交流団体や多様な分野の市民公益活動団体、地域の諸団体、そして豊中市との連携強化を一層すすめていきます。</p> <p>また、外国人労働者の受入拡大が始まったことだけでなく、新型コロナウイルスの感染拡大による影響の把握を進めながら、市や事業者、関係機関・団体とも協力しながら、適切な対応に取り組んでいきます。</p> |

| | | |
|-------------|--|---|
| | <p>の市民が参加し、出会い、学び合っていくプロセスは着実に進んでできていると考えています。</p> | |
| <p>総合評価</p> | <p>財団の基本理念「市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域ですすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる」は、豊中市の「多文化共生指針」の基本的な考え方と完全に合致しており、その実現に向けての協働・連携の有機的な関係が強く結ばれていると考えています。</p> <p>また、豊中市とも密に情報交換を行いながら業務を進めています。</p> <p>財団がこれまで築き上げてきた実績と独自のノウハウを十分に活かし、効果的で効率的に事業を推進できていると考えています。</p> <p>また、センター利用者に対するサービス水準もかなり高められ、センター利用者が地域や社会において、市がめざしているまちづくりに大いに貢献していると言えます。</p> | <p>2019年4月より、外国人労働者の受入拡大が始まり、外国人の来日が加速しています。一方でコロナ禍により、外国人の来日は一時的に止まっています。短期的には状況は大きく変わる可能性があるものの、一方で日本社会の少子高齢化の進展とそれに伴う労働力不足は続くことから、長期的には外国人労働者の受入れは進み、財団の社会的需要と役割は増大すると考えられます。</p> <p>また、社会状況の変動の激しさから、課題もこれまでとは違った内容、違った形で現れることも予想されます。多様化、複雑化も見込まれる中、地域の国際交流団体や多様な分野の市民公益活動団体、地域の諸団体、そして豊中市との連携強化を進めながら、解決に取り組んでいきます。</p> <p>また、センター事業を共に推進している市民・学生ボランティアやセンター利用者との課題共有と協働関係をさらに深めていくことも重要であると認識しています。そのための財団のガバナンスの確立と同時に、組織の安定性と柔軟性をもった体制を保っていきます。</p> |

9 市による評価

| 評価の視点 | 評価内容 | 課題・方向性 |
|---|--|--|
| <p>団体の存在意義 (必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出資目的は薄れていないか ・ 市の施策の方向性に適合しているか | <p>とよなか国際交流協会は、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動を推進する事業を行い、平和で平等な地域社会づくりに寄与することを目的として本市の全額出資で設立された財団です。</p> <p>当協会は、外国人の日本への移住・定住などにより外国人市民が増加する中、本市の多文化共生指針、人権文化のまちづくりについて理解を示し、地域に住む外国人市民に対して多言語相談、にほんご教室などの事業や日本人市民との交流事業などを行い、外国人市民が安心して暮らせるまちづくりを推進しています。</p> <p>これらの取組みから、市の人権文化のまちづくりや多文化共生指針の推進に貢献していると言えます。</p> | <p>当協会は、本市の「多文化共生指針」に沿って、さまざまな社会的・文化的背景を持った人々が人権尊重を基調として、お互いに理解し合い、地域社会の一員として暮らすまちづくりを推進しています。</p> <p>本市においては、就労、留学等により地域に住む外国人が急増しており、協会の役割は大きくなっています。</p> <p>今後も、市民の状況やニーズの多面的な把握を行いながら、さまざまな人・団体とつながり、人権尊重を基調とした、多くの人が交流できる取組みを展開して今後も多文化共生のまちづくり推進の中心的役割を担ってもらうことを期待します。</p> |

| | | |
|--|--|---|
| <p>団体の活動領域 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出資法人等を活用するメリットはあるか ・出資法人等にしかできないことか | <p>当協会の外国人市民の実態把握や、これまで培ってきた経験・ノウハウなどを活かしたさまざまな事業は、市民、団体、ボランティアとのネットワーク作りやニーズに沿った多文化共生のまちづくりの推進に大いに貢献しているものと考えます。</p> <p>また、福祉、環境、スポーツ、人権などさまざまな分野で活躍する団体と連携することにより、地域の人的・物的資源や情報を有効に活用できています。これらの連携による事業展開や、SNS やチラシなどの多様な媒体を使った国際交流センターの認知度向上によって、さらに新たな利用者呼び込むとともに、必要な支援が必要な人に届くことができるような取組みをすすめています。</p> <p>今後も多文化共生のまちづくりの推進に重要な役割を担っていると考えます。</p> | <p>当協会の強みであるこれまでの経験、ノウハウや500人を超えるボランティア、そして地域住民や諸団体とのネットワークを大いに活用して、コーディネーター役も担いながら事業展開をすすめてもらいたいと考えます。</p> <p>また、地域へのアウトリーチによるつながりや団体とのネットワークによる支援の取組みを推進することにより、限られた経営資源を有効活用して、さらに多くの人への啓発、支援につながることを期待します。</p> |
| <p>団体と市との関係性 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか ・市の関与は適切か | <p>市が実施している外国人の市政案内・相談窓口や外国人市民会議等の事業と、財団が実施している多言語相談事業や市民交流事業、支援事業などで、役割分担と連携を図りながら多文化共生のまちづくりを積極的にすすめてきました。</p> <p>令和2年2月には、新型コロナウイルス感染症のため、「災害時多言語支援センター設置に関する協定書」に基づき、国際交流センター内に「災害時多言語支援センター」を設置し、多言語情報の随時発信等を行っています。既存の方法で情報発信するだけでなく、郵送やメールマガジン、ホームページ内に特設ページを作るなど、多様な媒体を使ってより多くの市民に情報が届くように努めています。</p> <p>市や他の機関との連携を通し、人権尊重を基調としたともに暮らすまちの実現のために貢献していると考えています。</p> | <p>市が多文化共生指針を基に実施している事業と、協会がすすめている多言語相談事業や市民啓発活動、外国人市民の地域参画事業等で連携を図りながら、同センターが、市が掲げる多文化共生の理想の実現のための拠点施設となることを期待しています。</p> <p>また、今後も感染が拡大することが予想される新型コロナウイルス感染症において、協定に基づいた多言語情報の発信拠点になることとともに、収集した情報の共有等、市と連携しながら、外国人市民への支援体制の強化に期待します。</p> <p>引き続き、市や社会の動きに合わせて、必要な支援体制を整えていくとともに、市や他団体との連携による多文化共生施策に沿った取組みを実施することを期待します。</p> |
| <p>総合評価</p> | <p>多言語相談事業においては、新型コロナウイルスの影響もあり、相談日を週1回から週4回へ増設し、またオンラインでの相談を新たに導入するなど、より多くの市民がさまざまな方法で相談できる体制を整えました。</p> <p>また、日頃の相談対応事例から見えた課題解決をめざした講座などを実施し、今年度も、離婚や在留資格など日常生活に関するさまざまな内容の相談を受け、内容によっては関係機関へと繋げ、相談者の課題解決へと努めました。</p> <p>地域へのアウトリーチや関係団体とのネットワークを利用した連携事業の実施、さまざまな機会を捉えた当財団や多文化共生活動の知名度向上の情報発信をすることで自主財源の確保に努めました。</p> <p>さらに、同協会内の組織体制の強化や研修会、連絡会議等を実施し、より安定的かつ発展的に業務を遂行し、多文化共生施策を推進</p> | <p>新型コロナウイルス感染対策のために実施したオンラインでの相談やテレワーク等の経験を活かし、今後の相談事業や組織体制の強化に期待します。</p> <p>また、これまでの地域へのアウトリーチや団体が培ってきた市民・ボランティア等とのネットワークとともに、多様な視点による他の手法の事業展開の推進、当財団及び多文化共生事業の知名度向上や、それらによる自主財源の確保に期待するとともに、本市の多文化共生のまちづくりのハブ的機能の役割を担う事を期待しています。</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>する拠点施設としての役割を果たして、多文化共生のまちづくりに大きく寄与したと評価しています。</p> | |
|--|---|--|